

No. 2 (2編 10月) 1952. 1. 発行

発行所 東京都文京区元町1-7-7 社会主義青年労働者同盟

青年労働者

- ★ 万国の労働者団結せよ!
- ★ 春斗と生活防衛、権利擁護の大統一闘争せよ!
- ★ 労働者の権利を守り、戦争と準備する内閣打倒!
- ★ すべての青年労働者は、社会主義青年労働者同盟へ結集せよ!

春斗を眞の権利と生活防衛の斗争にしよう

とにかく活動している組合の職場なら、どの職場でも、すでに春斗の準備がどの程度進んでいるかは、組合員のすべてがこの準備に参加することが必要だ。それによって春斗を、本場の生活改善と権利擁護の斗争とし、成果をからとることが出来る。一方資本家階級は、すでに春斗を切詰と骨抜きにするための大攻撃をはじめている。

我々は、頭をつべんから足をつま先まで労働者階級の立場に立って、この政の思想政策を大衆討論の中で粉砕せねばならぬ。又、聲にによる政の組織的攻撃に断固たる大衆的抗議を述べねばならぬ。

日産連は昨日、春斗に対する「至善者の見解」を発表している。特に「技術革新」ともなる至善の「変革」と「健全至善の確立」のために、賃上げに反対している。

「昨年の愛恨の斗争からは、じま、去年一年間、全国各地で徹底的に闘いぬかれた。勤評撤回、阻止の闘いが、今重大な危機に直面している。即ち「神奈川方式」勤評というものが、あたかも「良い勤評」であるかの様に宣伝され、これが全国化されてこれまでの勤評斗争の成果の一切を水に流そうとする動きが、労働者の中で行なわれていることだ。

何故勤評斗争が闘われたのか。これまで日教組の労働者は、国家権力の激しい弾圧と、資本家階級からのありとあらゆる攻撃を受けながら、闘いをくわし、非妥協的に闘ってきた。それは、勤評撤回が、教育の場で労働者を校長が専制として、押さえるものであり、それが日教組の団結の破壊と、教育の政府による支配

去年は「不況だから」が賃上げ拒否の理由だった。彼らはいよいよ口実をもうけて労働者を欺瞞しようとする。「技術革新」といういかにもきこ

をめぐらしたものであることを、日教組の組合員が正しく感じつつたから、これを発展したのであり、それが実施されれば、自由な教師の良心にもとづく教育の職場が再び校長の眼をうかがい政府のいなりになる教師の立身出世の場になってしまうものであり、勤評の項目を多少変えよう

も、その真は少しもかわらないものであるから、その非妥協的な態度阻止の闘いを続けて来たのだ。

神奈川方式は勤評ではないか。神奈川方式の根本的筋節は次の様なものだ。即ち「純教育的」に教育

勤評、神奈川方式に反対し 撤回斗争を支援しよう!!

えが良いが、殆んどの場合首切をもち、至善者の「変革」とは、労働組合の活動を抑制、資本家ののちも労働条件を労働者に押しつける「変革」だ。

資本家は「健全至善」と言いつて利潤を最大限にあげるために、労働者の生活条件を最低に、吾輩以下におしよけることに必死だ。企業がつぶれるとか、ありとあらゆるおどかして、労働者の要求を資本家の利益の前に屈服させようとしているのだ。

労働者の生活の防衛から出せよ。

これに対して総評は、賃金白書で明らかにした見解を反論の基にしている。その根本は、低賃金が不況の原因であり、賃金を高くし、購買力をあげることによって不況の原因をとりのぞくこと、資本家の利潤の増加に比して労働者の賃金上昇が少

委員会と話し合つて、校長を「至善者」に引き直さし、教師が各々個人で校長と話し合つて十数項目の自己反省の記録を提出する、というのだ。

神奈川方式の一部の人々は、果の教育委員会との団交の結果生まれたこの左列を、「勤評でない」と言っ

いことである。だが、これでは十分でない。我々の社会では、資本家の利益と労働者の利益とは、全く対立している。労働者の最低の利益すら、労働者が団結することによって資本家を歩みよせざるに、よって資本家を歩みよせざるに、よって資本家の利益を減らすことによつてしか守れない。所が総評は、資本家の利潤の増大のためにも労働者の賃上げが役立つかの様に言っている。資本家の利潤がどうなろうとそれは労働者には二の次の問題で、労働者の生活を守ることに第一なのだ。資本家の宣伝にひきまされることなく、眞に労働者の立場で春斗の要求を大衆討論しよう。職場で要求をまとめて、組合に出そう。

さる労働者を、個々バラバラに対立させ、分断させることを狙つていたから、その反対したのだ。現在の政府の下にある限り、教育委員会や校長が「純教育的」に「至善者」ではなく、まさにその反対の「政治的」であり、「権力の下働き」に、それと見せかけているから、その反対したのだ。労働者が一人一人て専制と話し合つて、絶対に闘えない様に、一人一人の教師が校長と「相談」してどうして教育を政府の支配から守る闘いが出来ますか。神奈川方式は労働者の「方式」ではなく美しい言葉で現実を飾りかかす、否、労働者を勤評のワナに陥しこむ政府と資本家の「方式」だ。

廿二、三日に中央委員会を所いた。春斗は、一方八十円、月二千円の要求を決定した。

△炭労をはじめ、純々斗争体制に入る！

大産産の中で、現在最も激しい攻撃を受けており、三井鉱山では、職場秩序の確立、福祉施設の拡張停止軍を中心とする合理化案が出されており、この闘が春斗の中でも重要な闘である。

十八、九と開かれ、一日延長された日教組中央委員会は、勤評斗争の今後の方針をめぐつて、「神奈川方式」の評価について論争し、結局三日に臨時大会を開いて決めることになった。これについては主張を参照。

他に全銀(千五百円)回銀(千五百円)プラセ七、これに忠告禁禁下げ反対斗争を主斗争とする(全電通(千五百円)プラセ六%)造船(単組別平均約二千円)私鉄(年令別プラセの大半二千円)中小(一%)が中央委を鉄鋼(定評制)二千円(一%)が大会を開いて三月下旬から三月末まで斗争体制を組んであり、合理化を徹底的に闘い、全通も開く中央委を終る。

我々は我々のスロウガンを目標をもって、組合員の先頭に立つて闘おう。

激激を手に、岸政府の本質を露呈にバックロした。勤評斗争こそ、あの偉大な警報法斗争を準備したとも言えよう。

眞に労働者階級の立場に立ち、日教組を守り、教育の帝國主義者による支配と闘おうとするものは、絶対に勤評を受け入れてはならない。新団としての斗争を、徹底的な大衆討論の上で続けねばならない。

我々青年労働者は、全力をあげてこの日教組のキを支援しよう。去年一年間、明らかに勤評斗争に対する労働者階級のとりくみは、弱かったがカバーされていた。

和歌山の至善を争ぼう！警報法斗争の至善を争ぼう！

それは、日教組の斗争を全労働者が生産者の闘いで支援することとを示している。

春斗の中で勤評について宣伝しよう！職場では討論しよう！勤評斗争に「金」を！「金」を生産者の斗争を！

去年一年間、日教組の勤評斗争の強化は、どれほど労働者階級に大きな

大産産の中で、現在最も激しい攻撃を受けており、三井鉱山では、職場秩序の確立、福祉施設の拡張停止軍を中心とする合理化案が出されており、この闘が春斗の中でも重要な闘である。

○中小企業はどうか

日本では中小企業問題が時に「マナーリズム」を取り上げられるようになったのは、日本独占資本が成熟期に入り矛盾の爆発した大正九年の恐慌以降で格化された。昭和二年の金融恐慌以降では、特に取り組む前に、中小企業という言葉の意義を明確にしなければならぬ必要がある。

官庁統計や法律、金融業務上では、実質上の必要に迫られて、便宜上従業員数や、資本金額等の量的尺度で、画一的に中小企業を規定している。例えば、「中小企業等協同組合法」においては臨時従業員三〇〇人未満（商業、サービス業）において三〇人未満、中小企業と規定し、通産省工業統計表や、総理府一事業所統計調査」においては二〇〇人未満を中小企業と規定している。又金融面からみると大蔵省は貸付対象企業として三十八年には資本金二〇〇万円未満を中小企業として規定したが、三十年には一挙に一〇〇〇万円に引上げたのである。このように量的規定は確かに個別資本の優劣を判定する一つの基準にはなるが、決定的なものとはならない。

中小企業問題の本質と労働運動の方向 (I)

梅田三郎

産業革命の多小は必ずしも資本金の大小を意味しない。各別別資本や業種によって資本の有機的構成は異なる。その間には著しいギャップがある。特に最近の設備更新や技術革新はこの傾向をつよめている。従ってわれわれが中小企業問題

〇産業部門間の競争

題を考へる場合、個別資本の地の割面である、質的側面を充分検討しなければ、質的側面を充分検討し中小企業と判断することは出来ない。それはむしろ資本主義発展の歴史的過程の中に求められねばならない。

一般に資本主義は各産業部門において均等に発展するものではなく、むしろ極めて不均等に発展するものである。地理的に極端な例を挙げると、各種の部品が組立てられて一つの完成品となるような、社会的分業の発達しやすい商品、或は又技術的には機械生産の行なわれにくい商品、量産化の困難な商品、大規模工場で作るより中小工場で作った方が儲かる商品があるが、これらは附随的な特徴であり、不均等に発展する各部門、各別別資本の各大小の一般ならわしかたに他ならない。問題はこの網の目に浮んでくる一つの現象の本質が何かを解明していかねばならない。そうすると当然その答は資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

△資本主義発展の二面性

「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

△労働運動の当面の諸問題

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

△労働運動の当面の諸問題 (続)

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

資本主義の構造そのものの中に見出さざるを得ない。

〇相対的過剰人口の搾取
「産業革命」による機械制大工業の出現、これを基礎とする産業資本が成立し、資本による競争的労働の搾取が法制化し、相互間の自由競争が展開されるが、この時代の初期、封建時代の手工業や、農村家内工業や、マニファクチュア等の遅れた生産形態のものがまだ存在し

われわれの奮闘スローガン

- 1) 生産防衛の大中働上打を徹底的に闘おう。
- 2) 雇員組合は臨時工の組織化と闘いを通じよう。
- 3) 合理化反対！ 完全雇傭！ 職場闘争を組織し、産業別全国統一闘争を闘おう。
- 4) 労働者の権利を奪い、戦争を準備する岸内閣打倒！
- 5) 日教組と民主教育破壊の野戦隊！
- 6) 日教組を支援しよう！
- 7) 低賃金を更に押し下げる資本家の買収法反対！
- 8) 侵略戦争への道安条約反対！
- 9) 軍国主義闘争の成果をのこらす發展させよ！
- 10) 大家闘争の強化のために職場委を築こう！
- 11) 兵士の強化のために工場代表員を築こう！
- 12) 野郎を激刺し、階級闘争に立つ野郎を送ろう！
- 13) すべての青年労働運動家は社青労働に結集せよ！
- 14) 全労働者を階級意識で武装しより広汎な闘争に備えよ！

われわれの奮闘スローガン

1) 生産防衛の大中働上打を徹底的に闘おう。

われわれの奮闘スローガン

1) 生産防衛の大中働上打を徹底的に闘おう。

理論研究欄 (2)

「何をなすべきか」

森 隆

レーニン

労働運動についての論評の中で、我々は「至善主義」といふ言葉を用いて正確に使用し、至善主義を日和見主義として扱った。レーニンの「何をなすべきか」である。労働運動の戦術の基礎的問題を扱っているこのパンフレットには、わが運動の痛切な諸問題という副題がついているが、その様式副題が、現在でもびつたりする様な内容を持つている。その紹介を添筆者に依頼した。

(7)革命的潮流を
作り出すために
一言にして言え、社会主義運動をどの様に宣伝するかを明らかにした。我々、とくに「至善主義」に対する優位的な批判を行なうた。レーニンの「何をなすべきか」は、革命的立場に立つて斗争を導くようとする者に最大の指針となる。

この小著は、レーニンは一九〇二年のこの頃、ロシアの国外で書いた。當時は、唯一の社会主義政党がロシアにはなく、その結成が課題として追求されていた。しかもその結成を前にして、ドイツから流入したブルジョア社会主義の資本主義的理論が社会主義的イデオロギーの中心にすら影響を与えていた。

レーニンは、こういう日和見主義の潮流を徹底的に批判し、革命的な潮流を作り出す。その潮流の上に十月革命を勝利に導いたあのボルシェヴィキ党を形成していったのだ。

とここで、現在、日本労働運動の内部にも日和見主義的、裏切りの指導、思想が満ち溢れており、全ての既成の組織が労働者階級を先導させ続けている中で、特に先進的労働者階級のレーニンに学ば、日本の労働者階級の中に、革命的な潮流を作り上げることが重要ではないだろうか。

「何をなすべきか」は全般的に五章からなっている。その第一章は「社会主義と自由の自由」という題で、ブルジョア社会主義と同一視して現れたロシアの社会主義者、レーニンの人々、他の一派、これと対立する革命的な社会主義者のイデオロギイを、労働斗争における「社会主義」の点で攻撃し、「批判の自由」を要求した。この対する批判があらわれている。社会主義運動に、理論的訓練に乏しい人々の多くがやっとならなはじめた、というこの時期に、ロシアの修正主義者が自己の思想の并語のために持ち出したこの主張が、これほど危険なものであるかをよく指摘してレーニンは次の様に

言う。「自分の手で科学を前進させた」といふ確信に満ちた人なら自由でなければならぬ。古い見解を新しい見解で置き換えることを要求する。」

「労働斗争」が、光に力と生命を与える。光があらぬ模範としており、はつきりした相違がはやけていくことは、その光の弱さの最大の証拠である。このこと、レーニンがふまえたマルクスの言葉は、今日でも又ふまえておかならぬ言葉だと思ふ。

(2)第一章 党内斗争の意義
「何をなすべきか」は全般的に五章からなっている。その第一章は「社会主義と自由の自由」という題で、ブルジョア社会主義と同一視して現れたロシアの社会主義者、レーニンの人々、他の一派、これと対立する革命的な社会主義者のイデオロギイを、労働斗争における「社会主義」の点で攻撃し、「批判の自由」を要求した。この対する批判があらわれている。社会主義運動に、理論的訓練に乏しい人々の多くがやっとならなはじめた、というこの時期に、ロシアの修正主義者が自己の思想の并語のために持ち出したこの主張が、これほど危険なものであるかをよく指摘してレーニンは次の様に

言う。「自分の手で科学を前進させた」といふ確信に満ちた人なら自由でなければならぬ。古い見解を新しい見解で置き換えることを要求する。」

「ロシア社会民主党内の新しい傾向」の根本的誤りゆえ、自然発生性の規律にあり、大衆の自然発生性が社会民主党員に大衆の自然発生性の規律を要求する。大衆の自然発生性の規律が強いほど、運動はますます大衆となり、社会主義の理論的ならびに政治的および社会的活動はますます多くの目的意識性を要求するのである。この目的意識性を要求するのである。階級の見地に立つた方針の大衆化と斗争の組織をよびかけていく。

第二章 大衆の自然発生性
第二章は「大衆の自然発生性と社会主義者の任務」と題して、労働者が至善主義の学からとりて社会主義理論を学からとりては決してないこと、社会主義は現在までの科学の最初の成果の批判の上に立つた高層な理論であることと、ブルジョア社会主義の普及手段のあらゆるものにおいて支配的役割をもっているから労働者は自然発生性にはブルジョアイデオロギイに毒されていることと示し、「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア的意識への風化に導く、なせならば、自然発生性、労働運動が労働社会主義であり、しかも労働社会主義はブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア的意識への風化に導く、なせならば、自然発生性、労働運動が労働社会主義であり、しかも労働社会主義はブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに

「労働運動の自然発生性」は、ブルジョア社会主義のイデオロギイのブルジョア社会主義の思想の規律化を意味するからである。それ故、我々の任務、社会主義者(マルクス主義)の意味、以下同じ)の任務は、自然発生性に対する斗争にある。それは労働運動をブルジョア社会主義の規律を求めようとする労働組合主義の自然発生性の努力から分離せしめて、革命的な社会主義の下に獲得することにある。」と、さらに